



ふとん乾燥機

いう証拠は認められるものの、乱雑きわまりない。が、よくしたもので、乱雑なりに、こには何と何があるはずだと、私なりによくわかっているので、家の手で整理されると、見違えるほどきれいになるものの、必ず一悶着が起きる。

病院から帰宅途中乗った女性の命を奪い、介護者も重傷を負った。

乗つた女性の命を奪い、車にはねられ、車いすに乗つた女性の命を奪い、歩道を通行していたところ、車にはねられ、車いすに乗つた女性の命を奪い、介護者も重傷を負った。

事例のように、自転車の放置は大変危険であり、さらに次のような社会問題も生じる。

「ここに、何々があつたはずだ」「いや、あつたはずだ。頼みもしないのに、余計なことをするからだ」「だまつたら、もつときれいにしておいてよ」「余計なお世話だ」と、子供のけんか同然となつてしまふ。

どここの家庭でも見られる光景でしようが、もともと、散らかしつばなしの私が悪いのだ

から、感謝はしているものの口から出る言葉は心とは裏腹になつてしまふ。そして、2

う3日は黙して語らずだが、そのうちに元に戻るから夫婦はありがたいのです。誕生日にふとん乾燥機を贈りました。いつも2階のベランダまで、ふとんの持ち運びがたいへんだろうと思つて…。

「あと9年ほどで金婚式を迎えるのに、贈り物は初めてだ」とは、なんと可愛げのないセリフだろうと思いつつも、まんざらでもない気分?を味わいました。

海老名市長 龜井 英一

自分の居場所から、すぐ手の届く所に必要な物が置いてあるということは、たいへん便利なことです。しかし、人が生活していると

思いつくままに

【事例2】病院から帰宅途中乗つた女性の命を奪い、歩道を放置自転車が占拠していたため、仕方なく車道を通行していたところ、車にはねられ、車いすに乗つた女性の命を奪い、介護者も重傷を負った。

【事例1】火災現場周辺道路に無秩序に置かれた放置自転車の排除に時間がかかり、初期消火活動が遅れ、3歳の男の子と母親の命が奪われた。

自転車は手軽で便利、そして健康的で環境にもやさしい乗り物です。しかし、路上などに放置されると弊害を引き起こし、多くの市民が迷惑しています。

▷問い合わせ 環境保全課(内533)



迷惑します 放置自転車

「私の自転車一台ぐらいで迷惑にはならないだろう」と考える方もいるかもしれません。が、その一台の放置自転車が原因で大量の自転車放置を誘発し、時には人の命を奪うことがあります。放置自転車が原因で多くの死亡事故は後を絶ちません。全国にはこんな事故事例も…。

【事例1】火災現場周辺道路に無秩序に置かれた放置自転車の排除に時間がかかり、初期消火活動が遅れ、3歳の男の子と母親の命が奪われた。

【事例2】病院から帰宅途中乗つた女性の命を奪い、歩道を放置自転車が占拠していただため、仕方なく車道を通行していたところ、車にはねられ、車いすに乗つた女性の命を奪い、介護者も重傷を負った。

事例のように、自転車の放置は大変危険であり、さらに次のような社会問題も生じる。

◎高齢者や小さな子ども、身体に障害のある人にとっては、歩きづらく危険。また、点字ブロック上の放置は、目の不自由な人にとって歩行することができず特に危険。

◎まちの景観を損ねるだけで出入りや営業活動の妨げに。

◎自転車・バイクの盗難を誘発し、治安が悪化する。

なく、住宅や商店の前の放置は地盤まで二十メートルもある深さから地下の基盤まで二十メートルもある深さから、草の古根がごつそり掘り出されたそうであるから驚きである。

最後の「一本松」の存在であるが、うち一本は国分寺並木に生えていたという。並木は相鉄線が海老名耕地へ出ようとする南側に位置する集落で、もともと九里の土手下に松並木があつたところからの命名といわれている。こ

の地域に「一本松」と呼ばれる巨樹があつたが、惜しいかな今から三百余年前の貞享年間に伐り倒されてしまった。

たという。随分大きくなり、長池の存在はいよいよ確実かとを考えられる。

大谷で六ツ沼、杉久保で池向、上河内(ながいけ)本郷(ほんごう)で永池(ながいけ)などあり、さらに端的に、永池川(ながいけ)中沼(なかぬま)、中河内(なかぬま)で上池(じょうち)などであるが、国分あたりで地上か

の項では長池堀(ながいけぼり)の名も見えるのが、何よりの論拠である。

さらにその流れの深さであるが、国分あたりで地上から地下の基盤まで二十メートルもある深さから地下の基盤まで二十メートルもある深さから、草の古根がごつそり掘り出されたそうであるから驚きである。

最後の「一本松」の存在であるが、うち一本は国分寺並木に生えていたという。並木は相鉄線が海老名耕地へ出ようとする南側に位置する集落で、もともと九里の土手下に松並木があつたところからの命名といわれている。こ

の地域に「一本松」と呼ばれる巨樹があつたが、惜しいかな今から三百余年前の貞享年間に伐り倒されてしまった。

たという。随分大きくなり、長池の存在はいよいよ確実かとを考えられる。

大谷で六ツ沼、杉久保で池向、上河内(ながいけ)本郷(ほんごう)で永池(ながいけ)などあり、さらに端的に、永池川(ながいけ)中沼(なかぬま)、中河内(なかぬま)で上池(じょうち)などであるが、国分あたりで地上か

の項では長池堀(ながいけぼり)の名も見えるのが、何よりの論拠である。

さらにその流れの深さであるが、国分あたりで地上から地下の基盤まで二十メートルもある深さから地下の